

排水設備工事責任技術者試験標準問題集 正誤表

(平成 28 年 1 月 22 日 現在)

頁	箇所	誤 (※二重下線部が誤り)	正
11	問題 18 問題文⑤	合流式下水道の区域においては、屋内排水 <u>整備</u> の排水系統も、汚水と雨水を分離せずに建物外に排除してもよい。	合流式下水道の区域においては、屋内排水 <u>設備</u> の排水系統も、汚水と雨水を分離せずに建物外に排除してもよい。
21	問題 38 問題文 記載の表 「給水圧 力と管 径」のフ ラッシュ バルブ式 の説明	<u>0.7Mpa</u> 以上の水圧を必要とする。 給水管径は (ア) mm 以上とする。	<u>0.07Mpa</u> 以上の水圧を必要とする。 給水管径は (ア) mm 以上とする。
26	問題 48 問題文 (ウ)	各個通気管の管径は、接続する <u>配水管</u> の管径の 1/2 より小さくしない。	各個通気管の管径は、接続する <u>排水管</u> の管径の 1/2 より小さくしない。
57	問題 15 解説 (1)	排水設備の新設・増設・改築等の工事及び処理区域内における水洗便所の改造工事は、 <u>市町村長</u> の指定する工事店でなければ行ってはならない。	排水設備の新設・増設・改築等の工事及び処理区域内における水洗便所の改造工事は、 <u>市町村長 (公共下水道管理者)</u> の指定する工事店でなければ行ってはならない。
57	問題 15 解答	(ア) ⑩ (イ) <u>⑦</u> (ウ) ⑥ (エ) ⑤ (オ) ⑭	(ア) ⑩ (イ) <u>⑦または⑮</u> (ウ) ⑥ (エ) ⑤ (オ) ⑭
63	問題 32 解説③	排水横枝管の <u>関係</u> は、これに接続する衛生器具のトラップの最大口径以上とする。したがって、誤り。	排水横枝管の <u>管径</u> は、これに接続する衛生器具のトラップの最大口径以上とする。したがって、誤り。

頁	箇所	誤 (※二重下線部が誤り)	正
75	問題 71 解説 (5)	したがって、土かぶりは、小数点第 2 位に四捨五入することから、1.31m となり、 <u>(エ)</u> の解答は③となる。	したがって、土かぶりは、小数点第 2 位に四捨五入することから、1.31m となり、 <u>(オ)</u> の解答は③となる。
75	問題 72 解説 (イ)	No. 4 下流側管底高 = 上流側管底高 <u>±</u> 落差	No. 4 下流側管底高 = 上流側管底高 <u>−</u> 落差
77	問題 75 解説 (ウ)	最大計画雨水流出量 Q は、流出係数 0.50、 <u>流達時間 (m³/秒)</u> $Q = 1/360 \times C \times I \times A$ $= 1/360 \times 109 \times 0.50 \times 0.8 = 0.1211 \rightarrow 0.121 \text{ (m}^3/\text{秒)}$	最大計画雨水流出量 Q は、流出係数 0.50、 <u>流達時間内の降雨強度 109 (mm/時間)、排水面積 0.8ha より</u> $Q = 1/360 \times C \times I \times A$ $= 1/360 \times 109 \times 0.50 \times 0.8 = 0.1211 \rightarrow 0.121 \text{ (m}^3/\text{秒)}$
79	問題 77 解説 (オ)	A、B 間の残土量は、掘削土量 16.75 m ³ 、埋戻し土量 16.18 m ³ より求める。 残土量 = 掘削土量 − 埋戻し <u>ど</u> 量 = <u>16.85</u> − 16.18 = 0.57 m ³	A、B 間の残土量は、掘削土量 16.75 m ³ 、埋戻し土量 16.18 m ³ より求める。 残土量 = 掘削土量 − 埋戻し <u>土量</u> = <u>16.75</u> − 16.18 = 0.57 m ³
79	問題 78 解説 (エ)	D 点の地盤高は <u>CB</u> 点の器械高 13.540m、D 点の前視 1.240m より求める。 <u>C</u> 点地盤高 = <u>B</u> 点器械高 − <u>C</u> 点前視 = 13.540m − 1.240m = 12.300m	D 点の地盤高は <u>C</u> 点の器械高 13.540m、D 点の前視 1.240m より求める。 <u>D</u> 点地盤高 = <u>C</u> 点器械高 − <u>D</u> 点前視 = 13.540m − 1.240m = 12.300m
80	問題 79 解説 (オ)	D 点の地盤高は CD 間の器械高 13.540m、D 点の前視 1.240m より求める。 <u>C</u> 地盤高 = <u>BC</u> 器械高 − <u>C</u> 前視 = 13.540m − 1.240m = 12.300m	D 点の地盤高は CD 間の器械高 13.540m、D 点の前視 1.240m より求める。 <u>D</u> 地盤高 = <u>CD</u> 器械高 − <u>D</u> 前視 = 13.540m − 1.240m = 12.300m

頁	箇所	誤 (※二重下線部が誤り)	正	
81	問題 82 解説 (B)	<p>区間延長 = (No.3 ます深 - No.2 ます深) <u>×</u> こう配 = (44 - 34) <u>×</u> 2/100 = 500cm</p>	<p>区間延長 = (No.3 ます深 - No.2 ます深) <u>÷</u> こう配 = (44 - 34) <u>÷</u> 2/100 = 500cm</p>	
84	問題 85 解説 (オ)	<p>各種衛生器具の排水単位表より、器具排水負荷単位数は、大便器（洗淨弁）の場合 8、掃除用流し（トラップ口径 75mm）の場合 3、小便器（ストール形（大型））の場合 4、洗面器の場合 1 であり、大便器 <u>3</u> 個、掃除用流し <u>1</u> 個、小便器 5 個、洗面器 <u>3</u> 個からの排水であることから、合計排水負荷単位を求めると、</p> <p>合計排水負荷単位 = $8 \times \underline{3} + 3 \times \underline{1} + 4 \times 5 + 1 \times \underline{3} = \underline{50}$ 合計排水負荷単位が <u>50</u> となり、許容最大排水単位表の排水横枝管の欄より、合計排水負荷単位を満足する待ち受けうる許容最大排水単位数の最小値は 160 となり、これに該当する管径は 100mm となる。</p>	<p>各種衛生器具の排水単位表より、器具排水負荷単位数は、大便器（洗淨弁）の場合 8、掃除用流し（トラップ口径 75mm）の場合 3、小便器（ストール形（大型））の場合 4、洗面器の場合 1 であり、大便器 <u>6</u> 個、掃除用流し <u>2</u> 個、小便器 5 個、洗面器 <u>7</u> 個からの排水であることから、合計排水負荷単位を求めると、</p> <p>合計排水負荷単位 = $8 \times \underline{6} + 3 \times \underline{2} + 4 \times 5 + 1 \times \underline{7} = \underline{81}$ 合計排水負荷単位が <u>81</u> となり、許容最大排水単位表の排水横枝管の欄より、合計排水負荷単位を満足する待ち受けうる許容最大排水単位数の最小値は 160 となり、これに該当する管径は 100mm となる。</p>	28.1 追加